

平成 25 年度(2013 年度) 第 3 回とよなか都市創造研究所運営委員会  
議事要旨

日 時 : 平成 26 年(2014 年) 1 月 27 日(月) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分  
場 所 : くらしかん 3 階 会議室  
出席委員: 新川委員、赤尾委員、安藤委員、坂田委員、砂原委員  
事務局: 本荘、福山、泉、森、熊本、平田、仲谷  
傍 聴 : 0 人

開会

案件 ( 1 ) ふりかえり

【資料 1】平成 25 年度 ( 2013 年度 ) 第 2 回運営委員会議事要旨

事務局から資料に基づき説明があった。意見等はなく、了承された。

案件 ( 2 ) 平成 25 年度 ( 2013 年度 ) 調査報告について ( 報告 )

【資料 2】平成 25 年度 ( 2013 年度 ) 調査研究 ( 報告 )

事務局から資料に基づき説明があった。以下、テーマごとに質疑応答をまとめる。

「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究 ( )」について

・委員: 今後、各々の研究を市政運営の中で議論することはあるのか。例えば、少子高齢社会研究と地域ブランド研究では、豊中らしい点を別の観点から見ているわけだが、これらに関連づけて施策を考えることはあるのか。

事務局: 来年度、事業担当課が二つの研究成果をふまえてブランド戦略基本方針を作っていく。また二つの研究成果は、総合計画の基本構想の点検にも活用する。基本構想が作成されて 15 年が経過し、人口の状況や都市のデザインも変わってきている。また計画策定当時は、都市ブランドという視点もなかった。基本構想を今後どうすすめてらいいのかを来年度検証していく予定である。研究所の研究は、そこで今後の施策を考えるための資料として位置づけている。

「交通整備に伴う人口構成の変化の調査 ( )」について

・委員: 道路と主要建物の関係を、このあとどう結論付けていくのか。

事務局: 今回の大きな目的は、道路と周囲の建物の関係を数値で明らかにすることである。そしてこの成果から、道路にどのような商業施設が貼りつくのか、住環境の整備をどう考えていけばいいのかなどについて、課題とその方向性を示唆することができる。

- ・委員:今のところ、更新があった、なかったという現況確認のみで終わっている。将来に向けてこの地区に人口を誘導する目的があるならば、道路の影響要因を総合的に丁寧に検討しなければならない。

「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究( )」について

- ・委員:クリエイティブを音楽や芸術だけでなく、もっと広く捉えるとあるが、どういうことなのか、具体的な例をあげてほしい。ブランドづくりの手順として、始めから広げ過ぎず、まず核となるものが必要ではないか。

事務局:確かに広げると焦点がぼけやすいが、一方でなるべくいろいろな人に参加してもらいたいという意図もある。いかに多くの市民を巻き込み、豊中市に愛着を持ってもらうか、が最大の目的であり、幅広くとらえることにした。

具体例としては、『創造界限』という冊子に紹介したアーティストらがいる。事業者でも、模型を作る会社など、市民には知られていないが業界では著名な会社が結構ある。それらを掘り起こそうとしている。

- ・委員:ブランドのコアが必要。豊中市の顔にならないといけないのに、魅力がいくつもあると顔が見えない。[資料2]p.25 の図からはスジが見えない。

案件(3)平成26年度(2014年度)事業計画(案)について

【資料3】平成26年度(2014年度)事業計画(案)

【資料4】平成26年度(2014年度)調査研究について

事務局から資料に基づき説明があった。以下、質疑応答をまとめる。

「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究( )」について

- ・委員:人口推計マニュアルとはどのようなものか。

事務局:現在のコーホート要因法による推計は、基準値(国調の値)に国立社会保障・人口問題研究所推計の出生率、生残率、移動率を掛け合わせている。しかし、社人研推計の値だと豊中市の実情に合わないため、独自に集合住宅の開発を要因として加えて、算出している。もう少し豊中市の実情にあった推計を行うためのマニュアルを整理したい。

- ・委員:社人研のデータは国全体の傾向を取り入れている。単に住基上の人口移動だけをみるのではなく、マンションの状況等を把握し勘案した方がいいのではないか。

- ・委員:人口推計は住基ベースだと現状の短期的な推移だけに着目したものになってしまう。実質的な人口推計をしたいなら、理論的に詰めた方がいい。実質的な人口推計と形式的な人口推計と全国ベースの人口推計とをバランスをとろうとすると失敗する。どれかに絞る方がいい。

#### 「豊中市の財政構造に関する調査研究」について

・委員：財政構造の研究は、公共施設の最適立地など豊中市をマクロにみた研究なのか、個々の施設をどうやって運営するかというマイクロな研究なのか。

事務局：まずマクロな視点から研究し、マイクロな視点については、資産台帳等が現在どうなっているかを確認した上ですすめたい。できればどちらもやろうと考えている。

#### 「地域特性を活かした文化振興に関する調査研究」について

・委員：ブランドを買う層は限定される。地域をブランドするということは、来てほしい人を限定すること。そういう意識をもってほしい。

事務局：南部地域は大阪市に近いこともあり、住宅地としても商業地としても潜在的な可能性はあると思う。若い人びとや(文化的に)先進的な層が入ってくるといいと思っている。

#### 全体について

・委員：運営委員会で、研究についていろいろな意見が出るが、研究に反映されていないのはいか。1年たっても委員から同じ意見が出ている。

・委員：運営委員会で出た意見をすべて研究に反映できるわけではないが、研究にどう反映されたか、なぜ反映されなかったか、という説明はほしい。

・委員：研究は長い期間かかるので、何年後かに意見が反映されるということもある。同じ意見でも言い続けていくことも必要。研究の最終的な成果の質をどう確保するのか、そのために運営委員会がどう関わっていくかを具体的に示してもらえれば議論の甲斐もある。

・委員：研究の成果が施策にどう結びついているかという報告も、わかりやすく示してほしい。

事務局：人口問題や地域ブランドの問題は、現行の総合計画には書けていない部分だった。これまで各部門で抱えていた課題や、個別に行っていた調査を、研究所が政策のプラットフォームになって整理・共有化し、部門間連携が少しずつ始まっている。

・委員：今まで市民として、豊中市行政が縦割りだと思っていたが、ここ数年で横の連携が始まっていると感じている。

・委員：事務局は、以上の意見をふまえ、来年度の事業をすすめてください。

#### 案件(4)その他

・平成25年度(2013年度)機関誌は2月下旬に発行予定。

・平成25年度(2013年度)研究報告書は3月中に発行予定。

・事務連絡

- 平成26年度第1回運営委員会は、5月に開催予定。

閉会